

[登録稲門会](#) [検索](#)

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

ソウル稲門会について

会ということもあり、集まる人は変わっても、2024年まで会が引き継がれてきました。現在は、駐在員、居住者、留学生、日本人、韓国人、老若男女がボーダーレスに集まって、定期的に交流しています。

主な活動としては、3カ月に1回の交流会に加えて、早慶合同会、ゴルフ早慶戦、グランピング、新年会、クリスマスパーティー、韓国人留学生の卒業生との大忘年会などがあり、在韓の稲門会会員にさまざまな機会を提供しています。

ソウル稲門会名簿(2012～2024)には、通算250人を超える会員が登録されていますが、チャットアプリ「カカオトーク」のソウル稲門会グループには50人のアクティブな会員がオンラインでつながっています。

崔 源成(2007年理工、09年工研修、12年工研博後)、
協力:高橋良巳(1988年法学)

ソウルの魅力

(上)世界文化遺産の南漢山城でのピクニック
(下)南漢山城で食べたダックポックンタン(鳥鍋)



1965年の日韓国交樹立で、当時の韓国の主要財団はどこも日本企業からの技術導入のため、資本と人を大量に受け入れました。それに伴い、韓国に駐在にきた日本企業の校友が親睦のために結成したのがソウル稲門会の始まりとされています。

その後、80年戒厳令、88年ソウルオリンピックから、現代の韓国に至るまでの歴史とともに歩んできました。海外にあり、駐在員が中心の稲門



新年会の様子。
代々受け継がれている校旗の前で校歌斉唱と記念撮影。
おいしいワインとすてきな時間を過ごしました

ソウルの都市の中心には雄大な漢江が東西にゆるやかに流れています。漢江の川沿いは、遊歩道と広場が連なり、まるで一つの大きな公園のよう。開かれた憩いの場は、ピクニック、犬の散歩、サイクリング、運動をする市民でにぎわい、季節ごとに各種催し物が開かれて、ソウル市民から愛されています。漢江沿いであれば、どこでもスマートフォン一つで「チキン&ビール」などソウルフードの出前が可能です。もちろん、決済もスマートフォンで完了。

漢江の北の地域は江北、南は江南と呼ばれ、江北には歴史的建造物や官公庁が多く、江南には新興高級住宅地や大きな繁華街が多いのが特徴です。

華やかな江南をコミカルに歌ったPSYの「カンナムスタイル」は2012年に世界的なヒットとなりました。ドラマに、K-POPに、映画に、発展著しい韓流エンタメは、2020年代のBTSまで脈々とつながっています。漢江の奇跡と呼ばれた1960年代の高度経済成長期を越えて、さらに現代においても成長を続けるソウルの魅力は、国内のみならず世界にまでもダイナミックに広がります。

崔 源成(2007年理工、09年工研修、12年工研博後)

会長メッセージ

2022年からソウル稲門会会長を務めています。早稲田大学は孤高な一匹狼の集団。群れず、こびず。それは在学中、卒業後、韓国にいても同じです。それでも会を開けば一度に20人ほどが集まり、会話を花を咲かせます。年齢も性別もさまざまな個性的なメンバーの集まり、話題は仕事、趣味、歴史、大学、恋愛、と多種多様です。しかし、会の終わりには一同で校歌を斉唱し、それぞれの道に散じていきます。われわれは遠いどこかでつながっている。早稲田から少し離れた地で、そんなことを思い出させてくれる会です。

ソウル稲門会とは別に、韓国人留学生の卒業生からなる韓国校友会があります。今年お亡くなり

になった暁星株式会社の趙錫来元会長、サムソン電子の李健熙元会長をはじめ、諸先輩方が奨学金で学生を支援しています。その奨学金で卒業した会員も多く、在 student と校友もまた早稲田のエコシステムの中でつながっているのです。

残念ながら、コロナ禍で稲門会活動は休止状態でした。その間に多くの会員が帰国し、当会も断絶の危機にひんしました。しかし、23年から新しい面々で活動を再開。これから絶えることなく、交流の場を提供していく所存です。ちなみに、ソウル三田会とのゴルフ早慶戦では圧倒的な勝利を収め、母校の誉れを韓国でも轟かせています。

正富竜一(1989年政経)

会員からのメッセージ

1997年1月に電通駐在員として韓国に赴任し、今日まで約27年間のソウル暮らし。会社員時代13年、退職後14年の滞在。会社員時代はともかく、退職後は自由な人生なのに居続けているのは、「日韓交流おまつり」運営委員長就任が要因。日韓友好に尽くしたい気持ち。27年間のほとんどが心地よい毎日。日本人として嫌な目にあったことなし。心の奥底にはソウルブルーの空色と李朝残影に引かれる自分がある。

田中将志(1973年法学)

国赴任中です。大先輩である李相伯先輩は、本学留学中バスケットボール部に所属し、卒業後バスケットボールの普及に貢献されました。日韓バスケットボール界での功労をたたえ、1976年の10回忌に早稲田が韓国に招待され、記念大会が開催されました。これが両国学生代表の選抜チームによる交流戦に発展し、今年で47回目です。韓国でも母校とバスケットボールで深いつながりを感じています。

近藤雄三(1994年教育)

私は現在、韓国の大学院に留学しています。大学2年次の時から新型コロナウイルス感染症が流行し、在学中は先輩方とお会いする機会があまりありませんでした。ソウル稲門会の皆さまは、学生の私を温かく迎え入れてくださり、毎回楽しい時間を過ごしています。韓国で真の学生生活を取り戻している感覚です。韓国人の友人たちと話をしていると、日本の意外な部分に興味を持っていることに驚かされます。例えば、自動販売機や畳、コンビニなどです。「日本らしさ」を表す単語として일분감성(日本感性)という言葉もあります。日韓の文化の違いを楽しみながら残り約半年の韓国生活を満喫し、帰国後も早稲田のつながりを大切にしていきたいです。

廣松真奈(2023年法学)

2017年から韓国の会社に勤めています。日本企業駐在員、交換留学生、早稲田でかつて学んだ韓国人の方、韓国企業に勤める方など、老若男女が語り合えるのが「ソウル稲門会」です。ほぼ毎回校歌も歌っています。旅先でも、えんじ色の服を着ただけで「早稲田!」と言われ、お子さまが早稲田に留学しているレストランのオーナーにも会いました。これ、すごいですよ。早稲田には言葉を越えた何かがあります。一生大事にしたい絆を感じています。

江口乃一郎(1985年社学)

大学時代、私は体育会バスケットボール部員として活動し、卒業後も同OB会で現役のサポートをしています。2022年より2度目の韓